



教育を
めぐる
動き

SDGs（持続可能な開発目標）とESD

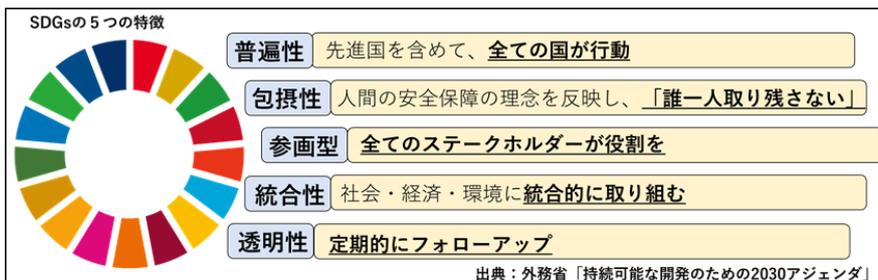
SDGsとは

持続可能な開発目標（SDGs : Sustainable Development Goals）

とは、平成13（2001）年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。

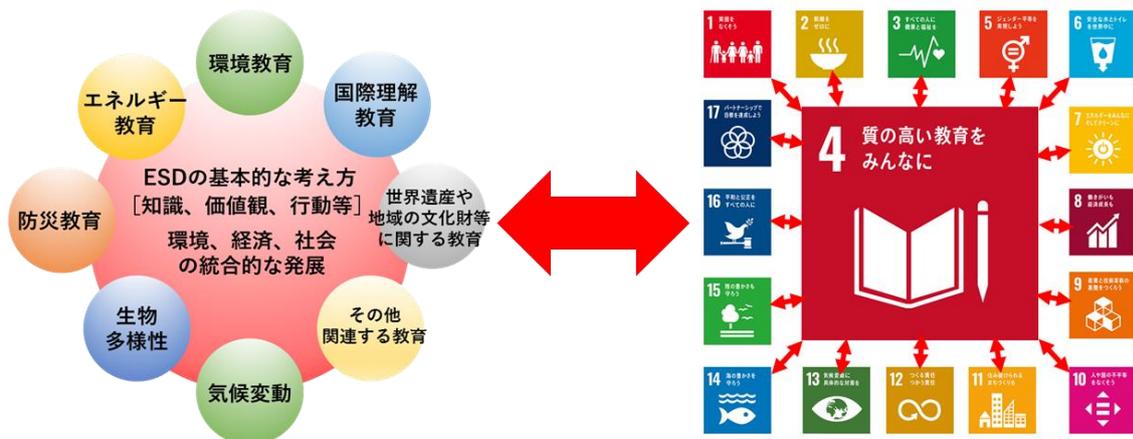
17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsの前身であるMDGsは、開発途上国向けの開発目標として、平成27（2015）年を期限とし、極度の貧困や飢餓の撲滅など8つの目標を設定していました。MDGsは一定の成果を達成しましたが、未達成の課題も残されました。

これを受けて採択されたSDGsには、右図の5つの特徴があります。SDGsは開発途上国だけではなく、先進国を含む世界全体の普遍的な目標です。



SDGsとESD

ESD (Education for Sustainable Development) は、地球規模の課題を自分のこととして捉え、身近なところから、取り組むことにより、課題の解決につながる新たな価値や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことをめざす学習や活動です。ESDの導入により、体験、探究、そして問題解決により重点を置いた学習スタイルへの変容が見られ、より学習者主体の参加型学習が可能となります。



ESDは、平成14（2002）年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で日本が提唱した考え方であり、ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育に関するグローバル・アクション・プログラム」に基づき、ユネスコを主導として国際的に取り組まれており、本区においても積極的に推進しています。ESDとSDGsは基本的な考え方において高い関連性があります。

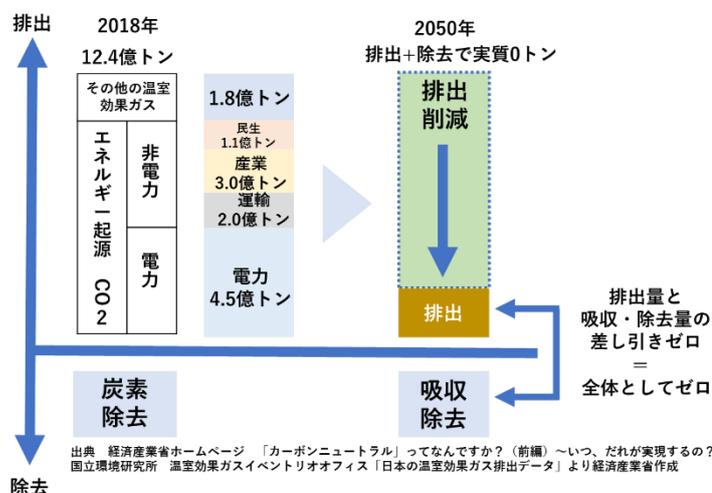
ESDは、国連総会でSDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット4.7に位置づけられるとともに、「その他のすべての持続可能な開発目標の実現の鍵」であることも確認されています。



4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

カーボンニュートラル

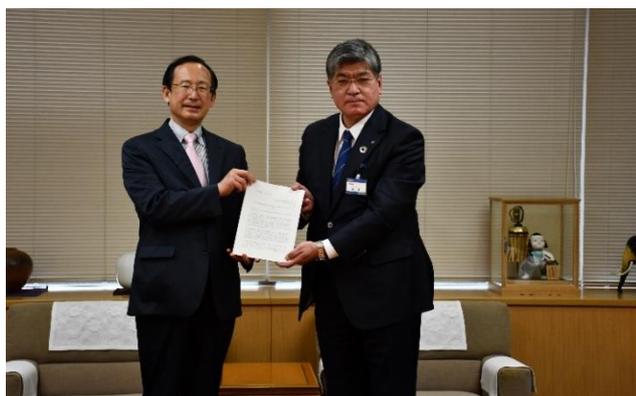
カーボンニュートラルとは温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることです。このカーボンニュートラルが実現した社会を脱炭素社会と呼びます。全体としてゼロにするとは、「排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにする」ことを意味します。



排出を完全にゼロにするのは現実的ではありませんが、排出せざるを得なかった量と同じ量を「吸収」又は「除去」することで差し引きゼロにするということです。これがカーボンニュートラルの「ニュートラル (中立)」が意味するところです。カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現は、SDGsの目標13「気候変動に具体的な対策を」をはじめ多くの目標と関連があります。

ゼロカーボンシティ

地球温暖化対策の推進に関する法律では、都道府県及び市町村は、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の抑制などのための総合的かつ計画的な施策を策定、及び実施するように努めるものとしてされています。こうした制度も踏まえつつ、昨今、脱炭素社会に向けて、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明した地方公共団体 (ゼロカーボンシティ) が増えつつあります。



板橋区地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) 2025 資源環境審議会からの答申

板橋区も板橋区地球温暖化対策実行計画 (区域施策編) 2025」において、ゼロカーボンシティをめざすこととしています。

環境教育の推進

板橋区は環境への取組として全国に先駆けて緑のカーテンを提唱し、全区立学校園で実践しています。また、平成 27（2015）年度に策定された「板橋区環境教育推進プラン 2025」に基づき、効果的な環境教育を進めていくため、テキスト「未来へ」を活用し、全区立小・中学校で環境教育の充実を図っています。

板橋区では、現在小学校 2 校がユネスコスクール加盟校として認定されています。今後も、ユネスコスクール加盟校を中心に、ESD 及び SDGs、カーボンニュートラルの視点を踏まえた授業実践ならびに教育活動を行い、環境教育の一層の充実・推進を図っていきます。

No.	12	事業名	「板橋区環境教育推進プラン 2025」に基づく環境教育の推進	4 質の高い教育を みんなに	13 気候変動に 具体的な対策を	
担当部署		指導室				
事業概要		<p>板橋区では、ESD の考えに則って平成 27 年度に策定された「板橋区環境教育推進プラン 2025」に基づいて、環境教育を推進している。各学校園では、板橋区内児童・生徒の、「環境についての感受性、共生や思いやりの心」、「環境に対する見方・考え方」、「環境に働きかける実践力」を発達段階に応じて培っています。また、区内の温室効果ガス排出量削減の取組を総合的かつ計画的に推進することを目的として令和 3 年 5 月に策定された「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」に基づき、区内のユネスコスクール加盟校を中心に、研修会等の機会を活用し、ESD 及び SDGs、カーボンニュートラルの視点を踏まえた環境教育の実践について、区内の小・中学校に周知・啓発を行い、環境教育を充実させていきます。</p> <p>ユネスコスクール加盟校及び申請校は、幼児・児童・生徒がエコポリスセンターから「子ども環境大使」として任命され、ESD を推進する拠点になります。</p> <p>各校の特色を生かした取組や発表を ESD 及び SDGs、カーボンニュートラルの考え方に基づいて行うことにより、人間と環境との関わりについて学び、自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに参画できる児童・生徒を育成していきます。</p>				
取組における視点		<p>ESD 及び SDGs、カーボンニュートラル³⁸の視点を踏まえ環境教育を充実させることによって、持続可能な社会の実現を担う児童・生徒の資質・能力の育成をめざします。</p>				
目標		4 年間の取組				
<p>総合的な学習の時間を中心に、環境教育カリキュラムやテキストを有効活用し、ESD や SDGs、カーボンニュートラルの視点到立ち、環境問題に対して自ら考え判断し、行動に移せる児童・生徒を育成する</p>		<p>「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」に基づき、ユネスコスクール加盟校を中心に環境教育の実践を重ね、好事例を蓄積しながら各学校間で共有し、板橋区全体の環境教育の向上に資する。「保幼小中一貫環境教育カリキュラム」「環境教育テキスト“未来へ”」の有効活用の徹底を進めつつ、社会情勢の変化に合わせた改訂を適宜行っていく</p>				

ユネスコスクールとは

ユネスコの理念を学校現場で実践するため、グローバルなネットワークを活用しながら世界中の学校と交流し、児童・生徒間、教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目的に活動しています。

板橋区では、現在、板橋第二小学校、板橋第七小学校の2校がユネスコスクール加盟校となっています。

板橋第二小学校の取組

板橋第二小学校では、生物が自然な状態で生息する空間である「ビオトープ」を学校敷地内に設置しています。生き物が出入りしやすいように整備することで、「生き物を探す学習」、委員会活動などの中でビオトープを維持・管理することで、「生き物が住みやすい環境に関する学習」など、ビオトープを中心とした環境教育を行っています。



板橋第二小学校のビオトープ

板橋第七小学校の取組

板橋第七小学校は、平成15(2003)年度から地球温暖化防止の一つの方法として「緑のカーテン」を中心とした「緑から学ぶ環境学習プロジェクト」により環境教育を行っています。また、身近な地域の自然環境や社会に関する持続可能な取組の向上をめざすため、「地域の自然・文化の持続に関する知識・理解」、「世界の自然・社会の持続に関する知識・理解」などに関連する教育を進めています。



板橋第七小学校の緑のカーテン